

## 2.感染対策

### 2-3.環境整備

# 新型コロナウイルスの 感染経路

大きい飛沫：数メートル先まで飛ぶ

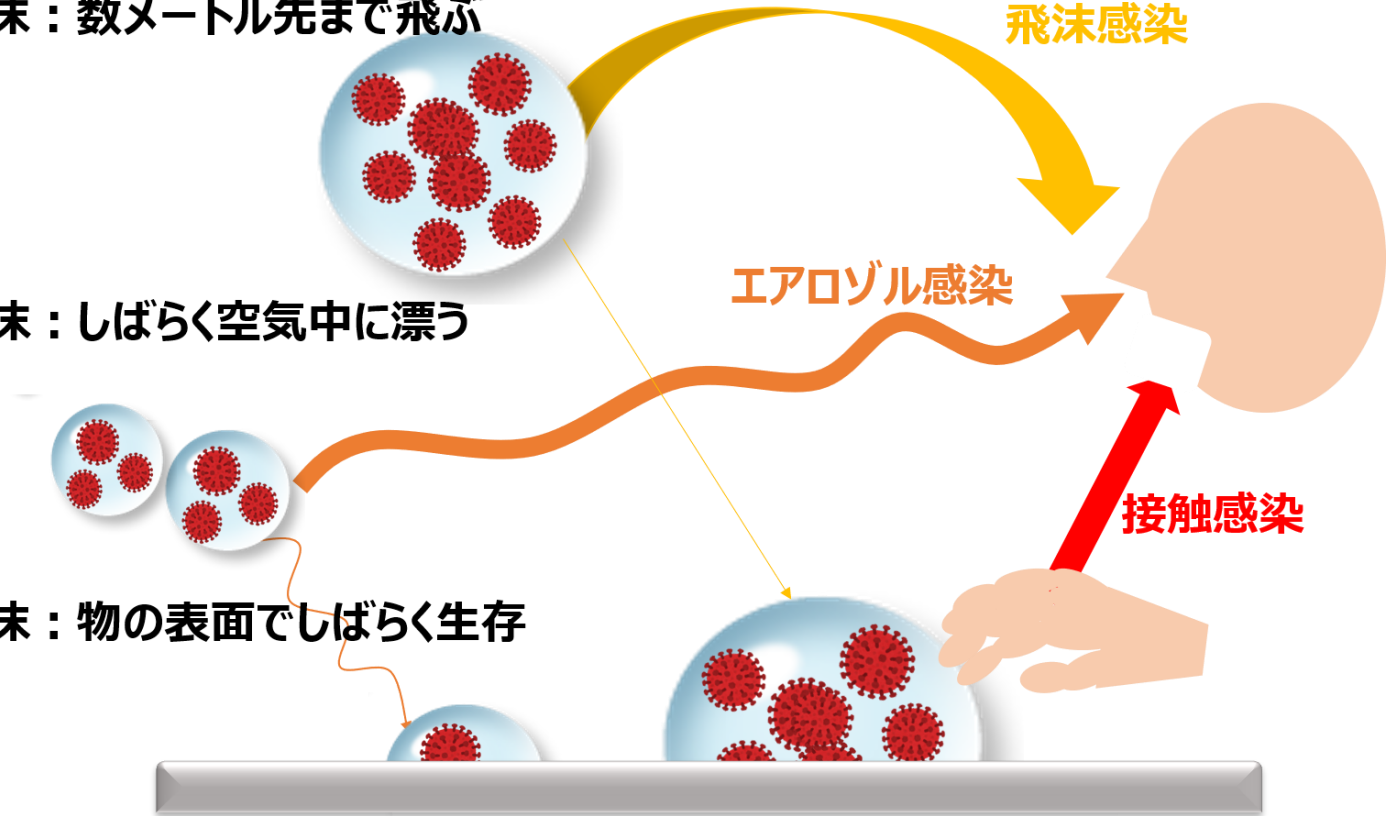
飛沫感染

小さい飛沫：しばらく空中に漂う

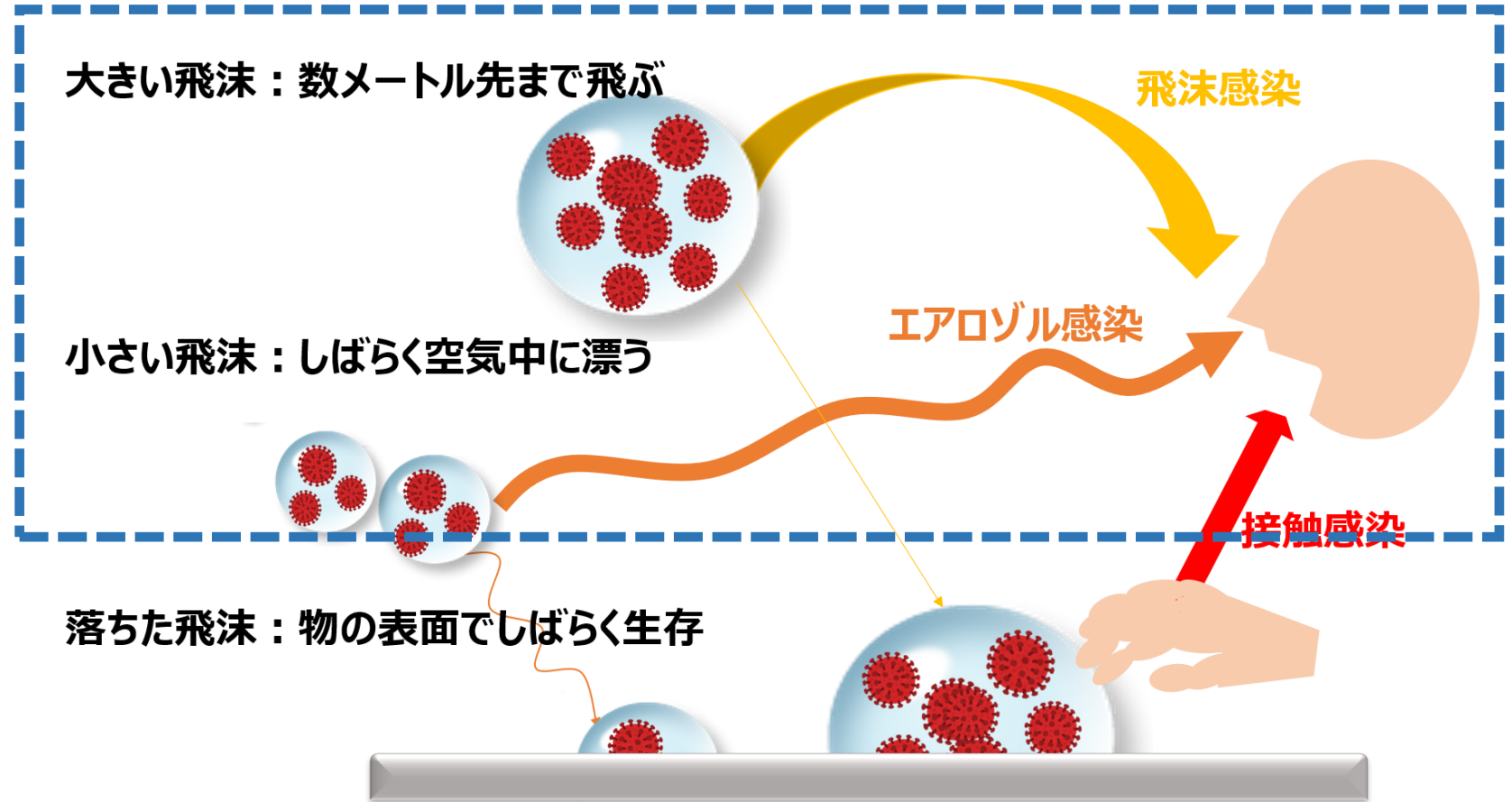
エアロゾル感染

落ちた飛沫：物の表面でしばらく生存

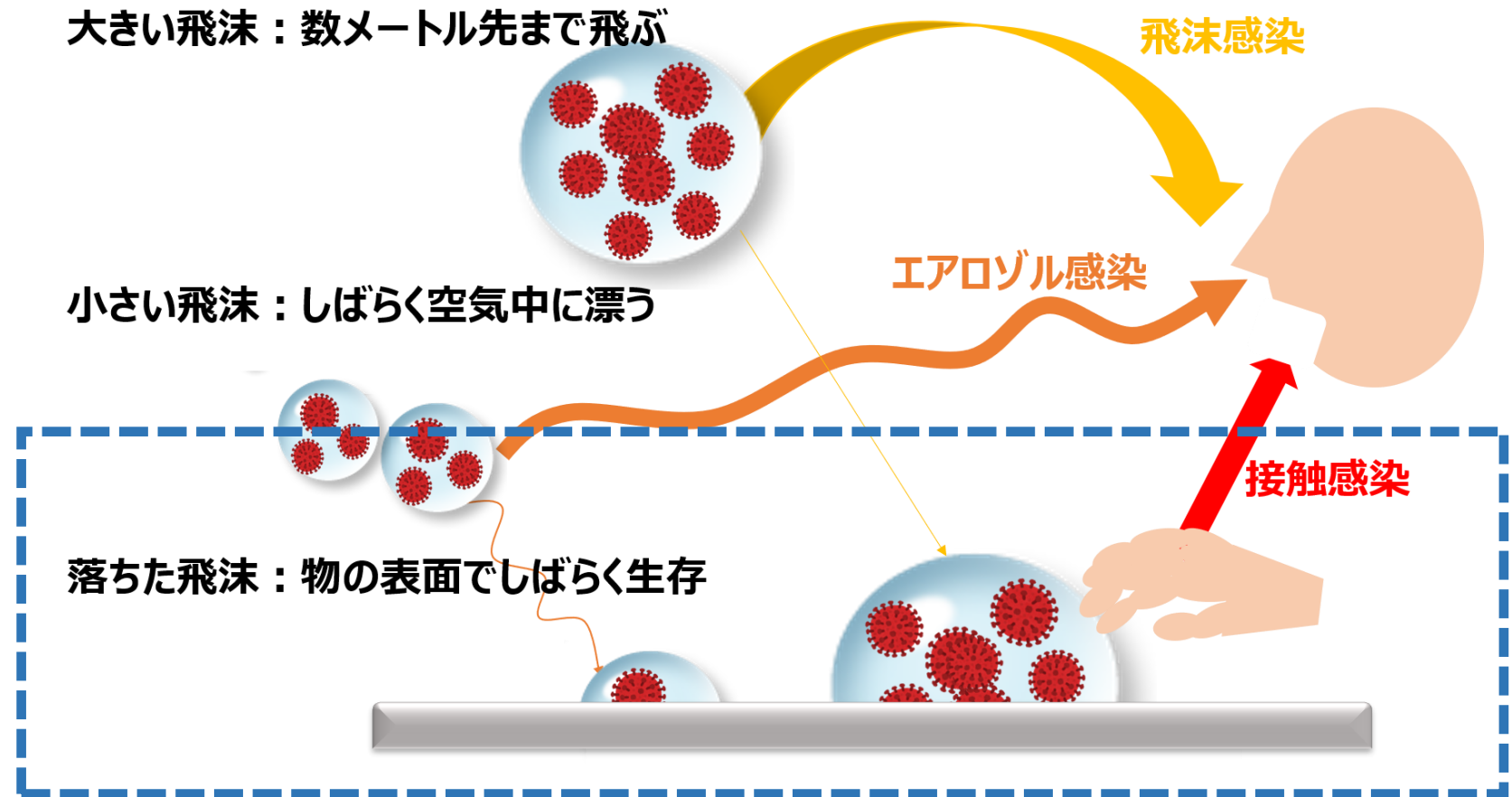
接触感染



# 新型コロナウイルスの 感染経路



# 新型コロナウイルスの 感染経路



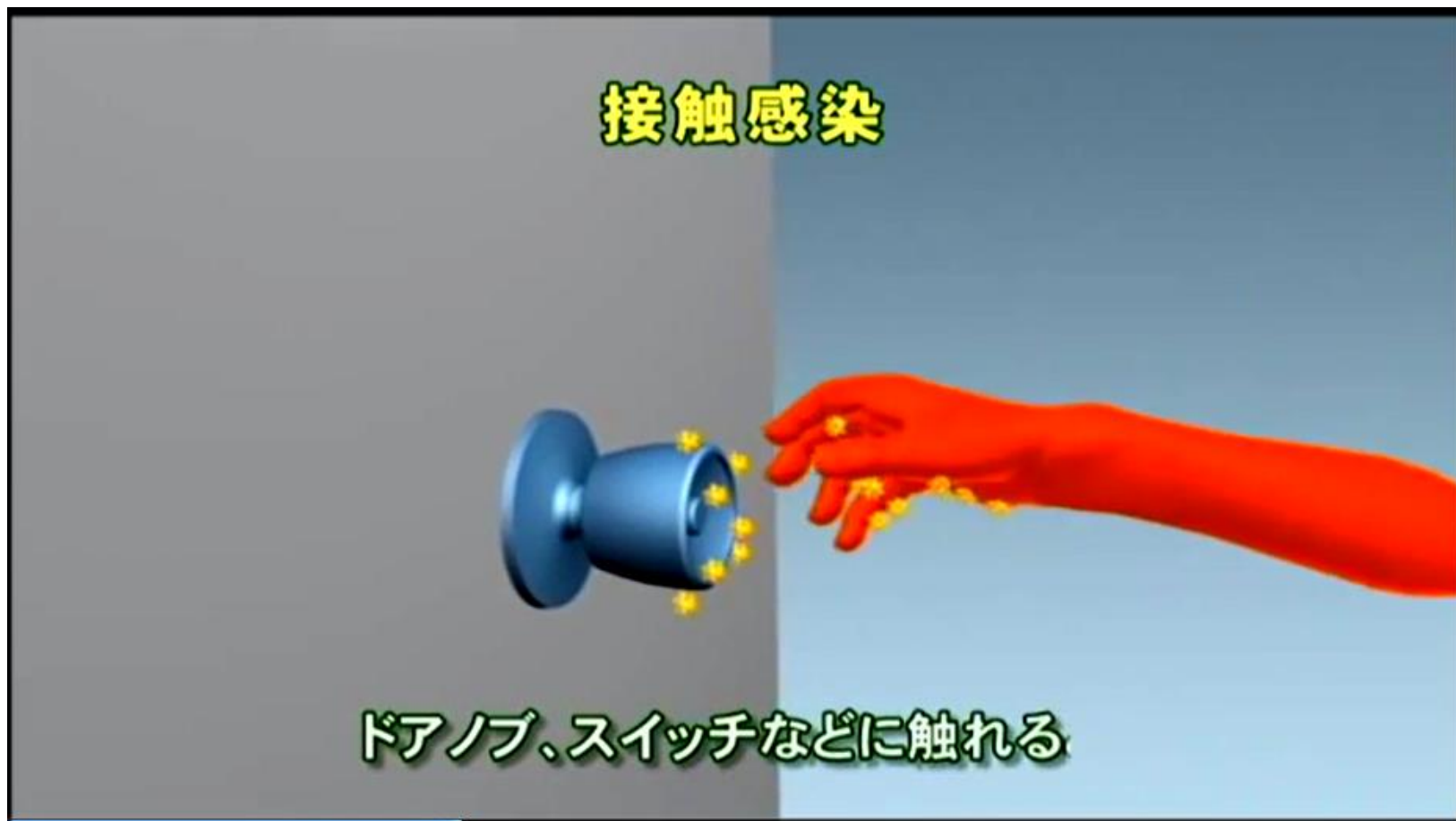
# 新型コロナウイルスの 感染経路



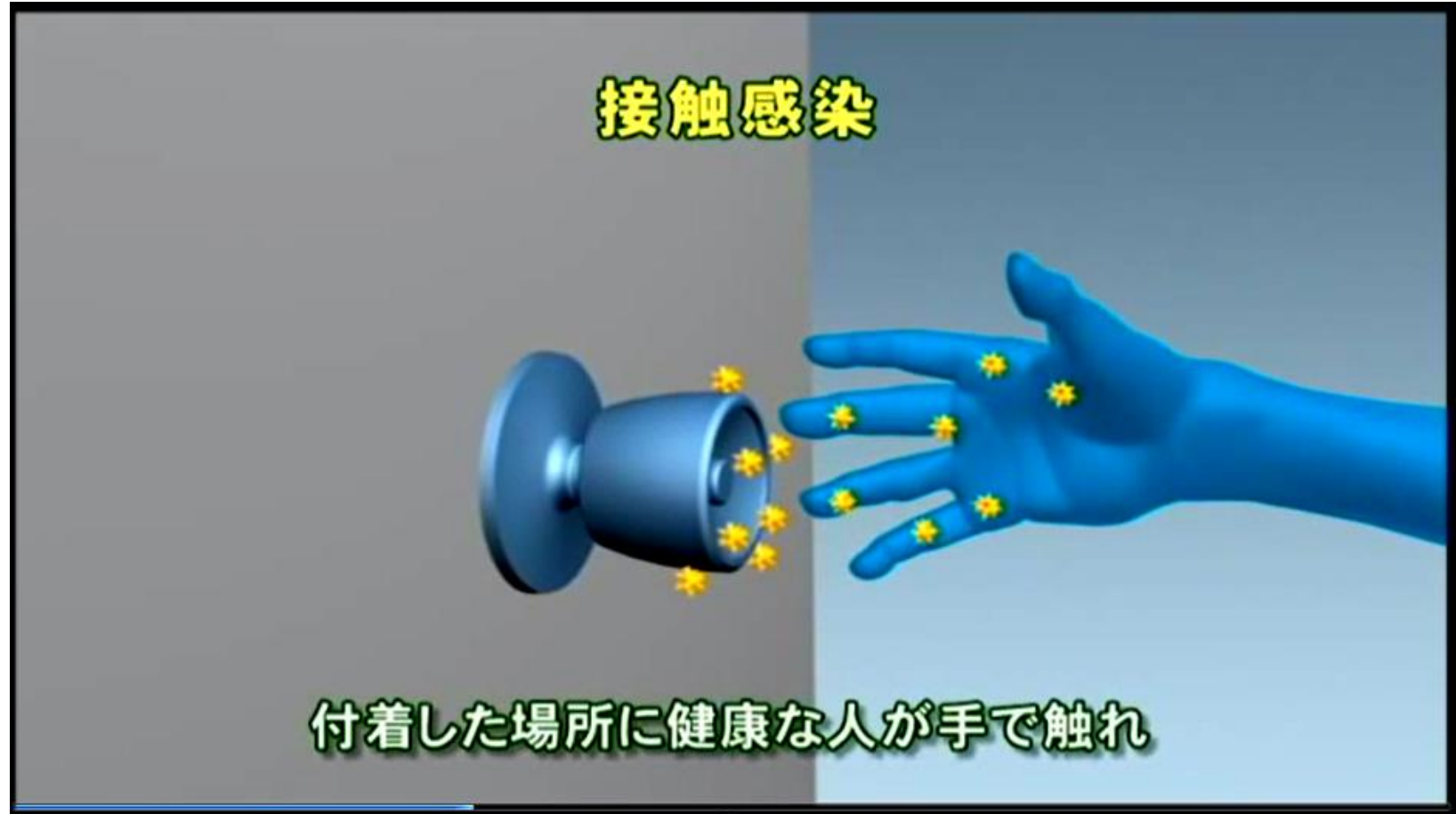
# 新型コロナウイルスの 感染経路



# 新型コロナウイルスの 感染経路



# 新型コロナウイルスの 感染経路





# 新型コロナウイルスの 感染経路



# 新型コロナウイルスの 感染経路

## 接触感染



粘膜などを通じてウイルスが体内に入り感染する

# 施設内の環境整備も重要

## 院内感染を防ぐために 私たちにできること

### Point 1 手指衛生の遵守

感染対策は手洗いに始まり、手洗いに終わります。正しい方法で実践しましょう。CDガイドラインでは、手洗いに目を見える汚れがある場合は「流水と石けん」を用いた手洗いを、目に見えない汚れがある場合は「手洗消毒剤」を用いるように推奨しています。手洗いは手洗消毒剤の代わりに手洗剤がなくても大丈夫です。正しい方法で実践しましょう。

**正しい手洗いの仕方**

①流水で手を濡らし、石けんをよく泡立てる。  
②手のひら、手の甲、指の関節を洗う。関節は磨くように洗う。  
③親指は手のひらにすり付けよう。しっかり洗う。

**ポイント**  
爪は短く切り、指輪は外して洗ってください。  
①-⑥を30秒以上かけて洗ってください。

**正しい手洗消毒の仕方**

①手洗消毒剤を手のひらにとる。  
②最初に向手の指先に消毒剤をすり込む。  
③手のひら、手の甲、指の関節をすり込む。

**ポイント**  
①-⑤を15秒かけて洗ってください。

### Point 3 職場でも重要な3密回避。医療従事者同士の感染を防ぐ

会議など集合形式で実施する場合、会議時間や、座席配置、換気、マスク・手指衛生の確保など、ルールを決めておきましょう。

対策としては以下の事項を守りましょう。

- ①ドアと窓を開け換気をよくする。
- ②対面飲食を避けるため向かい合っている席を避け、一定の間隔を設ける。
- ③食事は時間をずらすなど、少人数となるよう考慮する。
- ④食事中の会話はある程度控え、終了後は早急にマスクを着用する。
- ⑤換気設備をこまめに点検する。

### Point 4 環境対策(共有部分の消毒)をしっかりと行う

高頻度接触部位(ドアノブ、ベッド欄、患者が使用する器具など)や、スタッフの手すり、エレベーターのボタン、スイッチが共用するパソコンやスマートデバイス、テーブル、パソコン、電話、多数の...などは、定期的に拭き取り消毒する。

### Point 5 職場でも日常的な健康状態の確認を

職員から感染者が出るなど、施設内でのクラスター発生になる可能性があります。新型コロナウイルス感染症の初期症状は、発熱、咳など普通感冒の発症と類似の症状がほとんどです。このため発熱症状のみがみられるときには、そのまま出勤せず、必ず職場医に相談しましょう。早期対応が重要です。

### Point 2 マスクを正しく着用

- ひだを伸ばして、顔と鼻の形に合わせる。
- 鼻と口を完全に覆う(あごの下まで)。
- あごでマスクがはかばかになっていたり、鼻が出ないように注意する。

### Point 6 新型コロナウイルス接触確認アプリ「COCOA」の導入

アプリ導入により、早期発見・早期対応(接触者)につながります。症状がない場合も、万一に備えての自己認識など、被害への感染を防ぐ行動を取りやすくなります。

## Point 4 環境対策(共有部分の消毒)を しっかりと行う

高頻度接触部位(ドアノブ、ベッド欄、患者が使用する器具など)や、スタッフの手すり、エレベーターのボタン、スイッチが共用するパソコンやスマートデバイス、テーブル、パソコン、電話、多数の...などは、定期的に拭き取り消毒する。

# 環境整備とは

## 【目的】

療養環境や居住空間を清潔な状態に保つ

## 【ポイント】

1. 高頻度接触面を中心に1日1回清掃
2. 低頻度接触面は定期または汚染時に清掃
3. 清掃時は手袋着用（必要時エプロンやマスク）
4. 定期的な換気



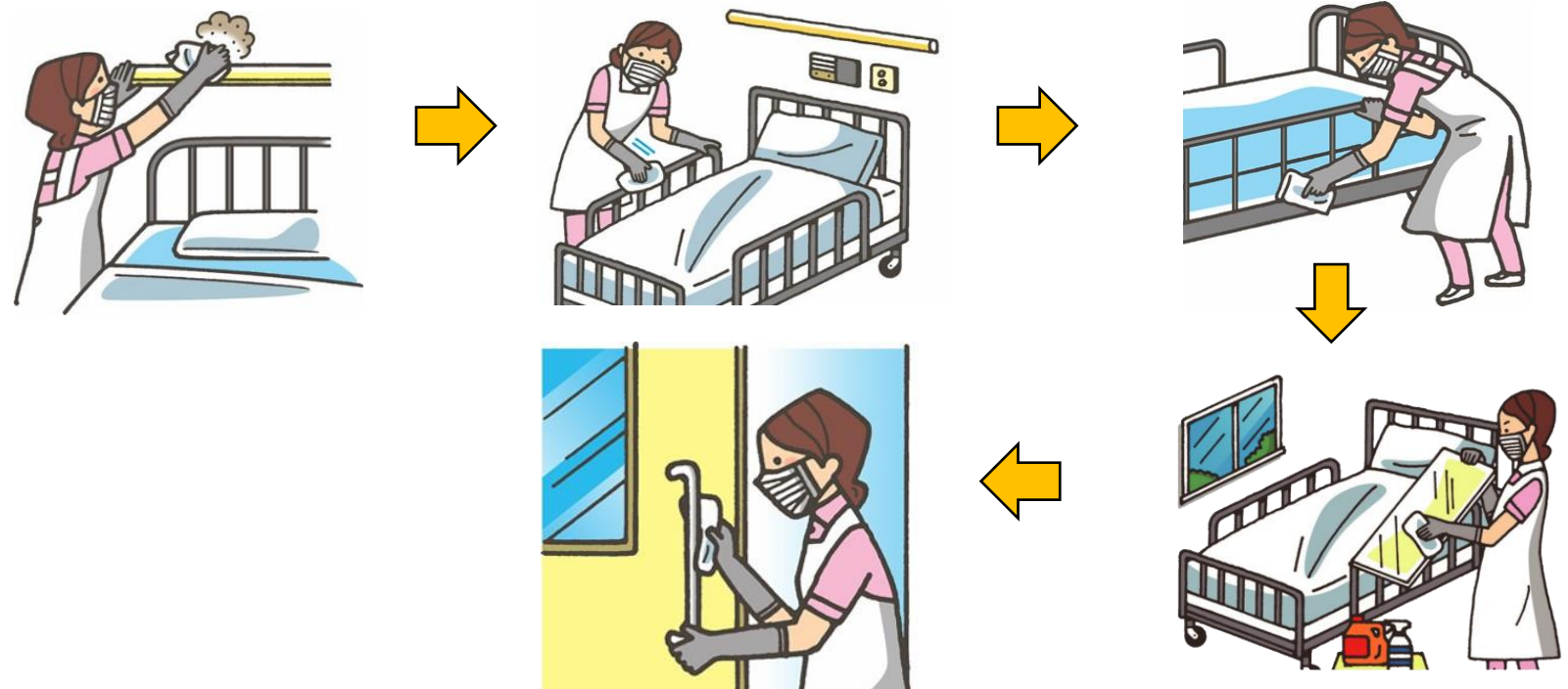
微生物を可視化

ベッドコントローラーの培養結果



# 清掃の基本

- ① 清掃時は手袋を着用（必要時マスクやエプロン）
- ② 清掃順は、高所から低所へ、部屋の奥から入口へ
- ③ ホコリをたてないように湿式清掃



共用部と職員エリアも  
清掃





# 共用部の水回りは 要注意

## 【洗面所】

- 歯磨きなどで微生物が飛散
- 水洗レバーやシンクをしっかりと清掃
- コップや歯ブラシなど私物は置かない



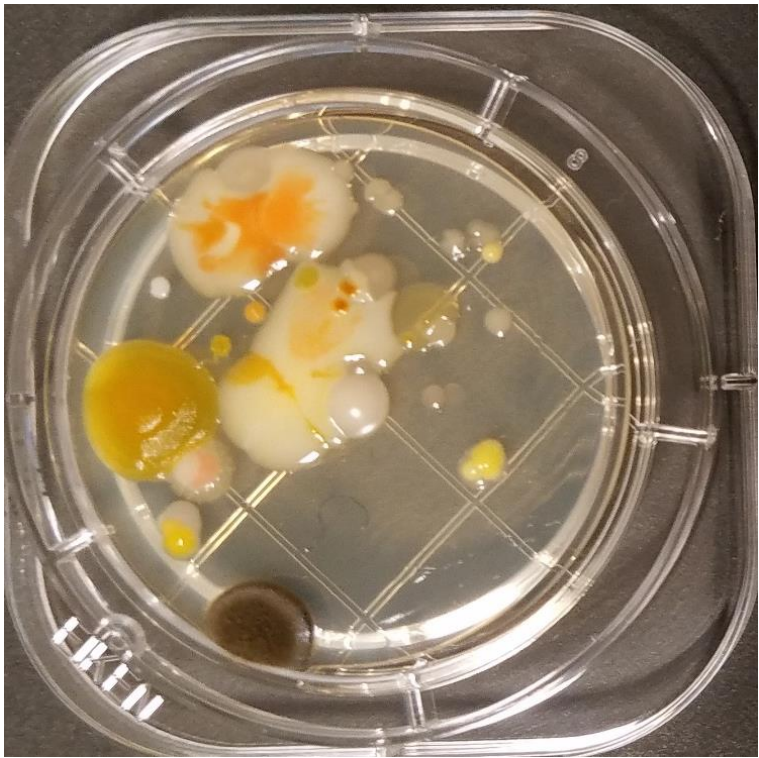
## 【トイレ】

- ノロウイルスや薬剤耐性菌の温床
- 便座のほか手すりやボタン等も清掃



微生物を可視化






便座の培養結果



# 清掃時の消毒薬

- ① 消毒用エタノール（70～90%濃度）
- ② 第四級アンモニウムなどの界面活性剤
- ③ 次亜塩素酸ナトリウム溶液



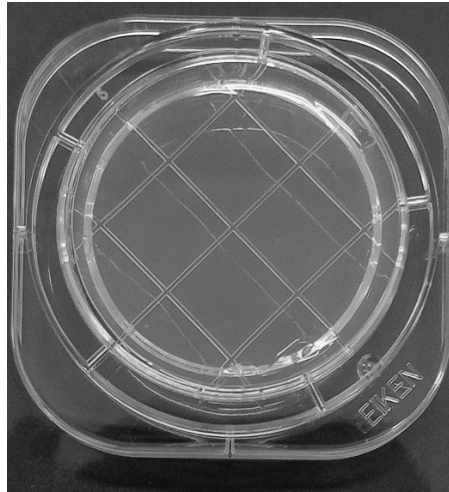
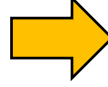
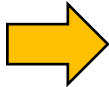
消毒対象	濃度(希釈倍率)	希釈方法*
<ul style="list-style-type: none"><li>• おう吐物や排せつ物が付着した床の消毒</li><li>• 衣類等の漬け置き</li></ul>	<b>0.1%濃度</b> (1,000ppm)	 500mL  5mL  5mL 500mLのペットボトル 1本に対し、10mL (ペットボトルのキャップ2杯)
<ul style="list-style-type: none"><li>• 食器等の漬け置き</li><li>• トイレの便座、ドアノブ、手すり、床等</li></ul>	<b>0.02～0.05%濃度</b> (200～500ppm)	 500mL  2mL 500mLのペットボトル 1本に対し、2mL (ペットボトルのキャップ半杯)

# 消毒効果の可視化

## 職員エリアのパソコン（キーボード）の培養結果



消毒前



消毒後

# 低頻度接触面の清掃

床

湿式清掃  
排泄物や血液による汚染時は消毒

壁

汚染時清掃

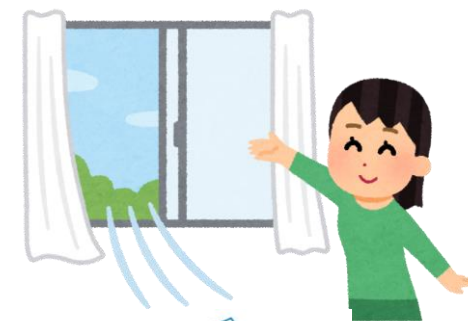
カーテン

汚染時交換や定期交換

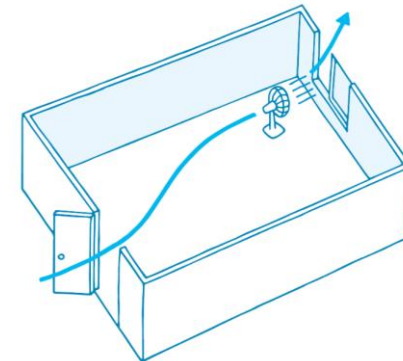


# 換気

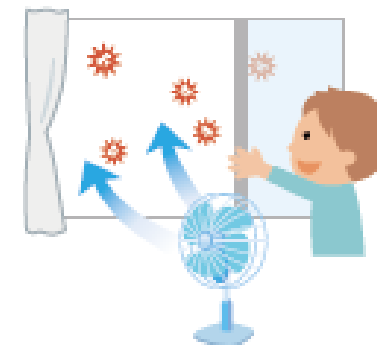
- 1 時間に 2 回以上、数分間／回



- 風の流れができるよう、できるだけ対角線上の 2 方向の窓を開ける



- 窓がひとつなら玄関を開けたり、扇風機や換気扇の併用で効果が上がる



## 【新型コロナウイルス感染症対策での環境整備】

1. 高頻度接触面を中心に 1日1回清掃
2. 低頻度接触面は定期または汚染時に清掃
3. 清掃時は防護具着用
4. 定期的な換気

環境整備の手順をマニュアル化することが重要

実施者、清掃場所、手順や頻度などを明記

外部委託している場合は、どのように清掃しているか確認